



(Photo : 馬場高志)

坂本 かや

KAYA SAKAMOTO

Close-up Interview

(3月号 表紙の顔)

「ボウリングをメジャースポーツに… その役割を担えるように頑張ります」

JPBAの今季開幕戦となった「WOMEN'S ALL☆STAR GAME」を制したのは、大会2週間前に20歳の誕生日を迎えたばかりの坂本かやプロだった。前年の3冠女王であり、昨年最終戦の全日本女子プロ選手権・優勝決定戦で敗れた姫路麗プロに、リベンジを果たしてのレギュラーツアー初優勝は、新時代の到来を予感させるスタートだった…が、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの影響で、スポーツイベントのみならず、あらゆる社会生活が機能停止状態だ。そんな沈滞ムードを払拭してもらおうべく、今最もホットでフレッシュな坂本プロに、今月の表紙を飾っていただいた。

「成長した姿を見せられたと思う」



—1月17日が20歳の誕生日でしたが、成人式は出席しましたか？

出ました。でも20歳になったからという、特別な感慨はなかったですね。同級生はほとんどがまだ学生ですが、16歳のプロ入りの決断は間違っていなかったです。今毎日がすごく楽しくて充実しています。

—20歳で迎えた最初の試合がWOMEN'S ALL☆STARでした。

去年の終盤からずっと調子がよくて、また全日本のミディアムと今回のオールスターが同じオイルパターンだったので、自信を持ちながら臨みました。

—トップシードで待つ優勝決定戦に、上がってきたのは姫路プロでした。

姫路プロが1フレをスペアのあとターキーは、全日本と同じ展開で、また同じ負け方をしちゃうのかな(笑)と思ったけど、5フレで9本だったので、その時点で3マークぐらい離れていたけど、まだいけると、なぜか余裕のようなものが生まれました。

—6フレから見事なオールウェーでした。

7フレに右レーンで初めてストライクがきて、ここしかないと思って、そのラインを信じて投げました。でも10フレは、緊張で立ってられないぐらい震えていました(笑)。これまで大事なところで力んで負けたことが何度もあったので、柔らかく柔らかくと自分に言いかけ

ました。少しは成長した姿を見せられたかなと思います。

—今年からリストタイが禁止になって最初の試合でもありましたが、もともと素手の坂本さんは、アドバンテージを感じた部分はありましたか？

いろんな人からそういうことを言われすぎて…(笑)、そう思わないようにしていました。

「レーンへの対応の幅が広がった」



—2019年は優勝こそなかったものの、飛躍の年になりました。

たくさん大会に出て、いろんな経験もして、そうしたなかで最近ではボウリングがわかるようになってきたと思います。昨年は夏場に調子を崩した時期がありましたが、ジャパンオープンの準決勝のときに、タイミングがしっくりくる投げ方を見つけて、そこからは自信をもって大会に臨んでいます。

—2年前くらいには、もっと技術の引き出しを増やしたいといっていました。

まだ完璧ではないですが、レーンに合わせてスピードや回転数、回転軸を変えてというように、いろんなことができるようになりました。苦手意識があったショートオイルのコンディションも、かなり克服できてきました。

—準優勝だったKUWATA CUPは振り返っていかがですか。

決勝はすごくキラキラした舞台上、お客さんが前にいて、そういう演出をボウラーのためにしていただいているというの

は、すごくありがたいことだし、そういう舞台上で投げられたのは自信になるし、誇りでもありますね。優勝決定戦は、自分の投球をして220で負けたので、しょうがないかなと思います。

—10代最後の試合、全日本選手権も準優勝でした。

3パターンのコンディションに対しても、うまく対応できました。優勝決定戦については、姫路プロに290を打たれて…、KUWATA CUPと同じ、引きずらない負け方でした(苦笑)。10代のうちにレギュラーツアーでの優勝を目標にしていたので、その点では悔しいですが、姫路プロが優勝インタビューで「365日、24時間この1ゲームを勝つためにやってきた」というのを聞いて、自分に足りないものを突きつけられた気がしました。

「いい準備をして再開に備えたい」



—好スタートを切った今シーズンですが、再開がいつになるかわからない状況です。

KUWATA CUPは去年のリベンジという意味でも、すごく投げたかったです。新トーナメントの住建ハウジングプレゼンツ・チャンピオンズカップも、これまでにないような大会になりそうで、ワクワクしていたので残念です。第2戦がいつになるかわからないけど、この開いた期間に、まだ素手でのボウリングに対応し切れていなかった人たちも逆にいい練習の期間にしてくると思います。私も前向きに準備期間ととら

えて、その人たち以上に努力したいですね。仕事としてではなく今本当にボウリングが楽しいので、練習もトレーニングも全然苦じゃありません。

—どんなプロボウラーを目指していますか。

ニュースなどを見ていると、若い人が活躍しているスポーツは注目度が高いと思うので、私もそういう役割を担えるようになりたいと思います。スタイルとしては、曲げるボウリングが自分の持ち味だと思うので、それを貫きたい。将来的にはアメリカに行きたいですね。自分がどのくらい通用するのか試してみたい。そして投げることだけでなく、人としても成長して、みんなから応援されるようなプロになりたいですね。

(取材協力：永山コバボウル)

坂本プロと一緒に投げよう！ 近日開催のチャレンジマッチ

- 3月12日
ラウンドワンLIVEチャレンジ
東京・ラウンドワン府中本町店
- 3月21日
岡山・コーシンボウル
- 3月22日
岡山・宏栄ボウル
- 4月4日
神奈川・永山コバボウル
- 4月5日
埼玉・所沢スターレーン

(注：スケジュールは変更になることがあります)



さかもと・かや/2000年1月17日、神奈川県生まれ。156cm。右投げ。血液型A。2016年プロ入り(46期/ライセンスNo.544)。通算2勝。2019ポイントランキング4位。永山コバボウル所属。

